

天理参考館 ニューズレター

天理大学附属天理参考館

発行日：2009. 3. 18

発行：天理大学附属天理参考館

編集：広報普及

第60回企画展

テル・ゼロール遺跡

—日本調査隊の軌跡—

会期／4月8日(水)～6月8日(月)

日本オリエント学会は設立10周年記念事業として、イスラエルにあるテル・ゼロール遺跡の発掘調査を1964年から1966年まで継続して行いました。おりしも政治・経済が激動する時代でした。ややもするところした面が強調されがちな60年代ではありますが、情熱を海外の発掘調査に捧げた日本人もいたのです。

出土した遺物はイスラエル考古局と協議の上、両国で折半されました。その際に日本側に引き渡された遺物は永らく天理参考館に寄託されていましたが、2003年に日本オリエント学会から寄贈されました。今回の展覧会では、出土遺物から約100点を選び紹介し、その成果を振り返りま

す。めまぐるしく変化する昨今、忘れかけた大切な何かを思い起こしてくれるかもしれないかもしれません。もう一つの60年代を感じ取っていただければ幸甚に存じます。



列品解説

日時／4月27日(月)・5月26日(火)

いずれも午後1時30分～

会場／当館 3階企画展示室

担当／巽 善信(当館学芸員)



甕形土器(鉄器時代)

「古代オリエントの都市遺跡」

—日本調査隊の活躍—

現在も多くの日本調査隊はオリエントで発掘調査を行っています。

このセミナーでは4名の方を講師に迎え、発掘成果を基にそれぞれの遺跡の都市的性格を紹介していただきます。

日時／4月11日(土)午後1時～

会場／当館 研修室

定員／100名

主催／日本西アジア考古学会・天理参考館

◆プログラム

午後1時～ 開会挨拶

午後1時10分～ 講演1

「オリーブ油の町 テル・レヘシユ遺跡」

講師／山内紀嗣(当館学芸員)

午後1時50分～ 講演2

「古代エジプトの都市をめぐる伝統と革新

—メンフィスとアレクサンドリア—

講師／長谷川 奏氏

(早稲田大学総合研究機構准教授)

午後2時30分～ 休憩

午後2時40分～ 講演3

「中央アジアのギリシア系都市を掘る

—ウズベキスタン共和国カンピール・ネパー—

講師／芳賀満氏

(京都造形芸術大学教授)

午後3時20分～ 講演4

「シリア・パルミラ遺跡の墓を掘る」

講師／西藤 清秀氏

(奈良県立橿原考古学研究所埋蔵文化財部長)

午後4時～ 閉会挨拶

講演会

「テル・ゼロール発掘の思い出」

講師／金関 恕氏(天理大学名誉教授)

日時／5月9日(土) 午後1時30分～

会場／当館研修室

定員／100名

◇テル・レヘシユ遺跡写真展

企画展開催にあわせて、現在継続調査中のテル・レヘシユ遺跡の写真展を開催します。

会場／当館3階ロビー



把手付鉢形土器
(後期青銅器時代)

「世界の民族楽器」

会期／7月1日(水)～11月30日(月)

今回の企画展では、参考館が所蔵する楽器資料の中から、伝統音楽を奏する民族楽器にスポットを当て、展覧します。

世界中の殆どの民族は固有の音楽とそれを演奏する楽器を持っています。中でも、特定の民族によって演奏される楽器は民族楽器と呼ばれ、それ以外の多くの民族によって演奏される楽器は一般に西洋楽器と呼ぶようです。いずれも音楽表現を行う道具に違いありませんが、構造や鳴らし方、あるいは音階や音域など、その特性から考えると様々に分類することができます。

たとえば西洋音楽では、使用される楽器の材質や動作によって弦楽器、管楽器、打楽器、電子楽器などに分類されます。ところが、民族音楽では、奏する楽器の発音原理によって、体鳴楽器、膜鳴楽器、弦鳴楽器、気鳴楽器、電鳴楽器の5つに分類されています。これはホルンポステル・ザックス分類法に基づき分け方で、現在もつても一般的な楽器分類法になっています。本展でもこの分



両面鼓 ルワンダ 高 69.3cm



竖琴「バガンナ」と「ケラル」 エチオピア 高左 123cm、右 65.2cm

類法に準拠しつつ、各地の民族楽器を紹介いたします。展示品の中には国が離れているにもかかわらず、同じ構造をもつ楽器がいくつも見られます。そこに文化の交流はあったのでしょうか。また、奏でた音は時を超え、地域を越えて我々の心のように響くのでしょうか。展示場で感じ取って頂ければ幸いです。

さらに、いくつかのイベントも開催します。7月26日～8月4日には小・中学生向けにワークショップ「ストロー笛を作ろう」を、10月25日(日)にはオカリナ奏者 善久(SHIKURO)氏を迎え演奏と講演を、11月15日(日)の関西文化の日には、各分野の演奏者による「民族音楽を楽しむ」を企画しています。

◆列品解説

日時／8月26日(水)・9月25日(金)・11月26日(木) 午後1時30分

◆関連イベント

第197回トーク・サンコーカン

「世界の民族楽器」

日時／10月17日(土)午後1時30分

講師／太田三喜 (当館学芸員)

海外調査

ブラジル日本移民百周年

新聞やテレビを通じて見聞きした方も多いかと思いますが、昨年は日本人がブラジルへ移住を始めてからちょうど百年目の年でした。これに合わせて様々な記念イベントが各地で催される中、ブラジルのサンパウロでは六月に「ブラジル日本移民百周年記念式典」が盛大に執り行われました。私はこの行事を現地取材するため、ブラジルへ行ってきました。



記念祭典で披露された阿波踊り

の日系人が暮らしています。代を重ね、六世まで誕生するに至った日系人社会にとって、百周年は自らのルーツを再認識する一大契機であり、私が取材した記念祭典では様々な日本の伝統文化が日系人の手によって披露されました。具体的にはソーラン節、阿波踊りといった伝統舞踊や、空手、剣道といった格闘技などが次々と演じられ、自分が本場にブラジルにいるのか目を疑ってしまうほど会場は日本的な空気に包まれていました。

このように日本文化を継承する努力が続けられる一方、日系人の間ではブラジル社会への同化も急速に進んでいます。その現状を端的に示すのが、日本語よりもポルトガル語を話す人口の増加です。記念式典での日系人代表のスピーチは、

ポルトガル語のみで行なわれました。私が見た限りでも、日系人同士の会話はポルトガル語でなされる場合がほとんどでした。

百周年を通過したブラジルの日系人社会が今後、日本とブラジルの二つの文化とどのように向き合っていくのか興味深いところですよ。(梅谷)



周辺の見所
長岳寺

長岳寺は、JR桜井線柳本駅から東へ徒歩20分のところに建つ、阿弥陀如来座像を本尊とする真言宗のお寺です。天長元年(824)、淳和天皇の勅願によつて大和(おおよま)神社の神宮寺として弘法大師が創建したと伝え、釜口山に建つことから地元では釜口大師とも呼ばれています。中世には広大な寺領を誇り、龍王山へ上る道筋には奥の院があるほどでした。応仁の乱やその後の争乱あるいは、明治の廃仏毀釈の影響をうけて寺は荒廃しますが、民間に根強い大師信仰により現在も法燈を守り続けています。

長岳寺には我が国最古の鉦楼門(重文・鎌倉時代)や、室町時代の地藏院跡を利用した庫裏(台所のこと)、参道を埋め尽くす約千株の平戸ツツジや本堂前の池に咲くかきつばたなど見所いっぱいです。中でも、重要文化財に指定されている庫裏の土間で食べるにゆうめんはまた格別なかな風情があつていいものです。(太田)



鉦楼門(重文・鎌倉時代)

資料紹介

御殿飾り雛人形
ごてんかざ ひなにんぎょう



奈良県御所市 昭和39年 全高235cm

奈良ではお水取りが終わると一気に春めきます。関西では、桃の花が実際に咲く旧暦で雛祭を祝う家庭も多いのではないのでしょうか。雛人形はひとつがたから発展したものと考えられています。ひとつがたは身体についた災厄やけがれをはらつてくれるものです。元々雛祭は3月はじめの巳の日に水辺に行つて自分の身を清めるお祓いの風習からはじまったと考えられています。ひとつがたはお祓いをしたあと流されますが、時代を経て流さずに家に飾るようになったのが雛人形です。

江戸時代以降さまざま雛人形がモデルチェンジを繰り返し、その時代に好まれる雛人形が生まれます。二百数十年の間にいろいろな工夫を凝らして生み出されたことは驚きです。時代を越えて、雛人形は女の子の健やかな成長を見守ってくれるものです。写真は昭和38年生まれの長女の初節句に大和高田市の人形店で買ってもらった雛人形です。「御殿飾り」の名前の通り、童宮城のような華やかな建物を最上段にしつらえ、そのなかに男雛、女雛、三人官女を飾ります。(幡鎌)

資料紹介

灰陶彩画楼閣
かいとうさいがろうかく



灰陶彩画楼閣 中国 漢時代 高さ112.8cm

漢時代には、お墓に焼きもので作ったさまざまな模型や人形を納めることが流行しました。中国考古展示場の奥に展示しているこの建物模型もその一つです。たくさんある部品を組み合わせた高層の建物で、穀物倉庫と物見やぐらを兼ねています。現在14個の部品がありますが、もとはもつと多かつたはずですが、これだけ多くの部品を間違いなく組み立てるのは容易ではありません。実はこの模型の後側には、白い文字で「第五」「第四」「第三」と大きく書いた字が見えます。「第一」と同じ意味であり、つまり組み立て間違いがないよう順序を示しているのです。当時の人も組み立てが難しく困つたのでしょう。この「取扱説明」のおかげで、約二千年後の今も博物館で正しく組み上がっています。(小田木)

発掘調査

重要文化財を出土した 東大寺山古墳の測量調査

天理参考館では天理大学などと協力して、天理市櫛本にある東大寺山古墳の測量を行っています。東大寺山古墳は全長約140mの前方後円墳で、1961-1962年に発掘調査が行われました。出土した鉄刀の一振りに金象嵌(きんざうがん)された文字が彫り込まれており、我が国で発見されたものとしては最古の年号を持つことから、その出土遺物は一括して重要文化財に指定されました。

諸般の事情により調査報告書が出版されていなかったため、今回その出版に向けて墳丘の測量調査を行うことになりました。発掘時にも当時としては素晴らしい図面ができていたのですが、今回は1m毎であった等高線を25cm毎にし、より精度の高い図面を作成しています。また、発掘当時と現在でどの程度地形の変化がみられるかを調査することも、今回の目的の一つです。

測量はかつては平板測量という、同じ高さの点を水平な板の上で描いて繋ぎ、等高線を作成する方法でしたが、現在はトータルステーションという最新の測量機器を用いています。

墳丘やその周辺は、現在、孟宗竹にびっしり覆われて暗く見通しが利かない悪条件となっていますが、一年ほどを費やし、三月中に無事終了しそうです。かなりのいい図面ができています。(山内)

公開講演会 トーク・サンコーカン

広く一般の方々に当館をさらに身近な施設として利用していただき、諸文化の理解と教養を深めていただくことを目的とする公開講演会です。講演は、いずれも午後1時30分受付は午後1時から当館研修室にて。受講無料(入館料が必要)。

第192回 「巨大古墳をいどころの人々」

月日/4月25日(土)

講師/藤原郁代(当館学芸員)

今から約1500年前の古墳時代、多くの古墳に人の形をした埴輪が並べられました。それらの埴輪が表現している人々は、古墳に葬られた権力者の周辺にいて、何か重要な役割を担っていた人々であると考えられます。今回は、埴輪にはどのような人が表現されているのかをご紹介します。彼らはそれぞれどのような役割を果たしていたのかを考えます。参考館が所蔵する多数の人物埴輪もできるだけご紹介したいと思います。



第193回

「幕末明治の上方の風景」

銅版画の名所絵にみる

月日/5月23日(土)

講師/中谷哲二(当館学芸員)

江戸時代終わり頃から明治時代後期にかけて京都・大阪を中心とした上方(かみがた)には木版色刷の錦絵版画ならぬ、銅版印刷による名所寺社などを描いた絵葉書位の大きさの土産用の摺物(すりもの)がありました。館蔵品から当時の風俗・景観に思いを馳(は)せまします。

第194回

「古代オリエントの動物」

愉快な仲間たち

月日/6月20日(土)

講師/巽 善信(当館学芸員)

西アジアでは今から約9000年前にヒツジ・ヤギを中心とした牧畜が始まっています。動物は神秘的な自然そのものであるとともに、生活を支えてくれるパートナーでもありました。現在の私たちは動物を実利的かつ合理的に見てしまいがちですが、古代の人たちの目にはどのように映っていたのでしょうか。

第61回企画展 「世界の民族楽器」関連イベント

「モンストーンアジアにみられる竹の楽器」

月日/7月18日(土)

講師/吉田裕彦(当館学芸員)

竹はその管が空洞であるところから、笛や笙などの楽器を作るのに恰好の素材となっています。竹が豊富にあるモンストーンアジアの各地では、たくさん竹でできた民族楽器がつかわれています。

各地で使用されていたさまざまな竹製の民族楽器を示しながら、その特徴を実演



を交えて紹介します。

また、西ジャワの民族楽器アングルンを使って簡単な曲をみんなで演奏してみましよう。

第196回

「磐余の大王墓」

桜井茶臼山古墳とメスリ山古墳

月日/9月26日(土)

講師/高野政昭(当館学芸員)

奈良盆地の東南部に磐余(いわれ)と呼ばれる地域があります。そこには茶臼山古墳とメスリ山古墳というふたつの巨大前方後円墳が築かれています。古墳の規模や副葬品からみても大王墓と呼ぶにふさわしい古墳です。では、ふたつの古墳に葬られた人物とはどのような人だったのでしょうか。想像をたくましくして考えてみます。



お知らせ 「国際博物館の日」

毎年5月18日を「国際博物館の日」と定め、地域住民の幅広い参加を得て、博物館の存在理由を全世界の博物館とともに、それぞれの地域社会にアピールする機会として開催されています。

当館は、この趣旨に賛同し、5月18日よりご来館されました方に、記念品を配布する予定です。(記念品が無くなり次第終了します)

利用案内

開館時間 午前9時30分～午後4時30分 (入館は午後4時まで)

休館日 毎週火曜(祝日の場合は翌日) ただし毎月25日～27日、4月17日～19日、7月26日～8月4日は開館

創立記念日(4月28日) 夏期(8月13日～17日)

入館料 大人400円、団体(20名以上)300円、小・中学生200円(※)

※学校単位の団体は無料。事前申込要

交通 電車/JR桜井線天理駅・近鉄天理線 天理駅下車 南東へ徒歩約30分

車/西名阪道天理I.C.から国道169号線を南へ約3km 駐車場あり(無料)

その他 団体見学は事前にご連絡願います

世界の生活文化と考古美術の博物館

天理大学附属天理参考館

〒632-8540

奈良県天理市守日堂町250番地

Tel 0743-63-8414

Fax 0743-63-7721

URL <http://www.sankokan.jp/>

携帯電話のサイトから情報をご覧いただけます



編集後記

天理参考館ニュースレター第6号を発行しました。平成21年度前半に開催します企画展「トーク・サンコーカン」を掲載しました。

今号では昨年ブラジル日本移民百年を迎えたブラジルへの調査報告や東大寺山古墳の実測調査などを掲載しました。当館の活動をこれからも掲載していく予定です。(片山)